大宮駅東口地区における公共サインの現状と禁止警告系サインの有用性に関する研究

BR15065　原皓人
指導教員 鈴木俊治

1. 背景・目的

さいたま市では、政令指定都市の風格に相応しいまちづくりの一環として、「さいたま市公共サインガイドライン」を策定した。適切な公共サインの整備により市民や来街者の利便性や、まちの魅力向上を図っている。中でも大宮駅東口地区では、大規模再開発事業や新たな行政拠点計画が進行中であり、今後とも適切な公共サインの設置によりまちの案内や秩序維持を図ることが必要と考えられる。

そこで本研究では、大宮駅東口地区における公共サインの現状を明らかにするとともに、その結果に基づいた評価・考察を行う。

◆解決したい SDGs

適切な公共サイン計画で誰もが住みやすく利用しやすいまちづくりを

2. 対象地の概要

人口	1,299,958人
世帯数	588,907世帯
面積	217.43㎢（平成30年10月1日現在）

図 1. 対象地の概要

JR 大宮駅は東北・上越など新幹線 6 路線を始め、JR 各線や私鉄線を有し、東日本の玄関口として重要な機能を担っている。大宮駅の東口には「大宮」という地名の由来となった氷川神社が存在し、駅前は商業施設やオフィスビルが集積しており連日多くの人で賑わっている。

3. 調査方法

3-1. 現状調査

図 2. 公共サイン調査範囲

図 2 に示した赤線部の歩道に設置されている歩行者向け公共サインの全てを対象とし調査した。調査期間は 2018 年 7 月～ 12 月である。調査エリアの区分は「駅前広場・路地街区・銀座通・中央通線・中山道・一の宮通・南銀座地区・西通線」であり、調査項目は「表示内容・表示方法・言語表記・設置主体・周辺状況・設置位置・姿図・その他・維持管理状態・公共サインガイドラインとの整合性」である。調査した公共サインは、個々に上記調査項目をシートにまとめるとともに、公共サインの設置位置を記した公共サインプロットマップを作成した。

3-2. アンケート調査

公共サインの中で最も多くを占める禁止警告系サインへの意識を調査するため、大宮区市民・銀座通商店街・南銀座商店街・大宮駅東口協議会・芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 3 年生を対象にアンケート調査を行った。

3-2. 公共サインの視認性分析

大宮駅周辺の公共サインがある各地点で歩行者の視野に近似した写真（レンズ焦点距離 50mm、高さ 1.5m、歩行正面を撮影）により、その視野における公共サインの見え方を分析した。

4. 調査結果と考察

4.1 現状調査結果

表 2. 大宮駅東口地区における公共サインの数と設置密度

地区	数	街路延長 m	密度（設置間隔）m/個	密度　個/10m
1 駅前広場北側	11	34	3.1	3.2
2 駅前広場南側	18	34	1.9	5.3
駅前広場計	29	68	2.3	4.3
3 銀座通り（西側）	40	382	9.6	1.0
銀座通り計	40	382	9.6	1.0
4 路地街	6	678	113.0	0.1
5 中央通　駅前街区（北側）	5	114	22.8	0.4
6 中央通　駅前街区（南側）	17	114	6.7	1.5
7 中央通　中央街区（北側）	7	111	15.9	0.6
8 中央通　中央街区（南側）	13	111	8.5	1.2
9 中央通　参道寄り街区（北側	12	252	21.0	0.5
10 中央通　参道寄り街区（南側	7	252	36.0	0.3
中央通り計	61	954	15.6	0.6
11 南銀	65	1,156	17.8	0.6
12 中山道（北側）	25	208	8.3	1.2
12 中山道（南側）	15	208	13.9	0.7
中山道計	40	416	10.4	1.0
13 一ノ宮通	17	470	27.6	0.4
14 西通線	19	608	32.0	0.3
全体（平均）	277	4,732	17.1	0.6

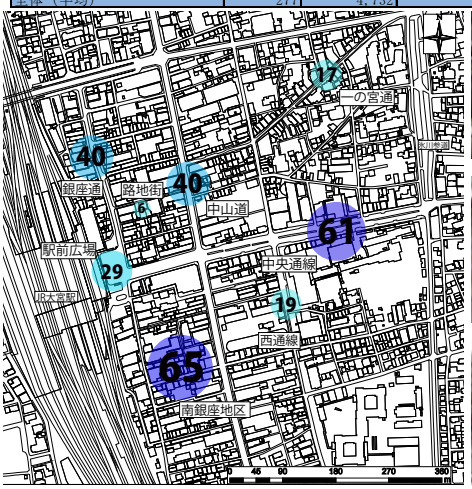

図 3. エリア毎の公共サイン設置個数

写真 1. 案内サインの例

写真 2. 禁止警告系サインの例

写真 3. 禁止警告系サインの例

表 2 は、大宮駅東口における各エリア毎の公共サインの数・街路延長・密度（m/ 個）・密度（個 /10m）を整理したものである。図 3 は、公共サインの設置個数をエリア毎に示したものである。調査結果は以下のようになった。

- 調査範囲内の公共サインの総数は 277 個であった
- 南銀座地区には 65 個と最も多かった
- 駅前路地地区には 6 個と最も少なかった
- サインの設置間隔は平均して約 20m に 1 個であった
- 駅に近いほど歩行者密度が高く、それに従って公共サインの個数も多い傾向にある。

表 3. 大宮駅東口における各公共サインの種類

A 総合案内サイン	9	5.4%
B 矢羽案内サイン	4	2.3%
案内サイン計	13	7.7%
C 禁止サイン　路上喫煙	62	23.9%
D 禁止サイン　駐輪	37	11.7%
E 禁止サイン　横断	27	12.6%
F 禁止サイン　ポイ捨て	6	1.8%
G 警察からの警告	55	17.1%
C・F 喫煙ポイ捨て禁止	12	4.5%
H 消火栓　広告	38	13.1%
I その他	27	7.7%
禁止警告系サイン計	199	74.8%
合計	277	100.0%
A 良好	208	70.3%
B 一部不良	55	23.9%
C 不良	14	5.9%
合計	277	100.0%

表 3 は、調査した公共サインの情報内容を整理したものである。調査の結果、禁止警告系サインが全体の 74.8% を占めており、案内サインは全体の 7.7% を占めていた。禁止警告系サインに注目すると、「路上喫煙禁止」が最も多く、次いで「路上駐輪禁止」が多いという結果であった。調査開始前は案内サインが多いと予想したが、結果として禁止警告系サインが多いことが分かった。

維持管理状態に関しては、全体の 70.3% が良好という結果であった。公共サインの維持管理についてさいたま市役所へヒアリングを行ったところ、「サインにより所轄部署が異なり、総合的な計画や管理はされていない」ということが分かった。

4-2. アンケート調査結果

表 4. 禁止警告系サインに関するアンケート内容と結果

問1.まちを歩いていて、禁止警告系サインに気がつきましたか。			問2.サインに気がついた方に質問です。サインの数ついてどう思いましたか。		
回答	人数(人)	割合(%)	回答	人数(人)	割合(%)
1.はい	75	64.1%	1.大変多い・多すぎる	4	3.4%
2.いいえ	42	35.9%	2.やや多い	14	12.0%
無回答	0	0.0%	3.適切・どちらとも言えない	44	37.6%
合計	117	100.0%	4.やや少ない	14	12.0%
			5.大変すくない・不足している	2	1.7%
			無回答	39	33.3%
			合計	117	100.0%
問3.現状の禁止警告系サインは役に立っていると思いますか。			問4.禁止警告系サインは街並み景観に影響を与えていると思いますか。		
回答	人数(人)	割合(%)	回答	人数(人)	割合(%)
1.大いに役立っている	2	1.7%	1.大いに与えている	12	10.3%
2.ある程度役立っている	30	25.6%	2.ある程度与えている	65	55.6%
3.どちらとも言えない	27	23.1%	3.どちらとも言えない	22	18.8%
4.あまり役立っていない	52	44.4%	4.あまり与えていない	16	13.7%
5.全く役立っていない	6	5.1%	5.ほとんどあるいは全く与えていない	2	1.7%
無回答	0	0.0%	無回答	0	0.0%
合計	117	100.0%	合計	117	100.0%
問5.禁止警告系サインを含め、公共サインについてのご意見がありましたらお書きください。					

表 4 は禁止警告系サインに関するアンケートの内容と結果を整理したものである。問 1 より、サインに気がついた人は 64.1% であり、気がついていない人は 35.9% という結果であった。問 2 では、サインの数について「適切・どちらとも言えない」と回答した人が 37.6% と最も多かった。問 3 では禁止警告系サインは「あまり役立っていない」と回答した人が 44.4% と最も多く、問 4 では街並み景観に「ある程度与えている」と回答した人が 55.6% と最も多かった。

以上から、禁止警告系サインが大宮の雑多な景観に溶け込んでしまい、視認性が低くなってしまっていると考えられる。また、人々のサインに関する意識は低く、禁止警告系サインはあまり役に立っていないと考えられる。

4-3. 公共サインの視認性分析

図 4. 大宮駅東口駅前

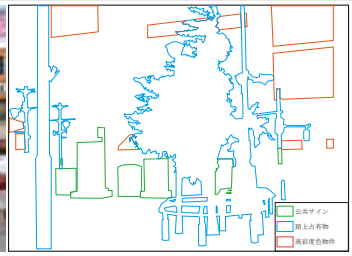

図 5. 図 4 の主な景観要素

表 5. 図 5 における各要素毎の計測結果

景観構成要素	視野に占める割合(%)
公共サイン	5.8%
高彩度色物件	10.3%
路上占有物	27.5%
その他	57.1%
合計	100.6%

表 5 は、大宮駅東口の駅前において写真を撮り、「公共サイン」「高彩度色物件」「路上占有物」「その他」の 4 つが視野に占める割合を算出したものである。公共サインが占める割合は全体の 5.8% であった。

公共サインが視野に占める割合は小さいが、公共サインは景観において「図」となるものであり、その景観的な意味合いは小さくない。一方、視野の中には高彩度色の屋外広告が複数含まれ、それに注目が集まりやすいため、公共サインは認識されにくいという問題も認識された。

図 6. 視認性の分析箇所

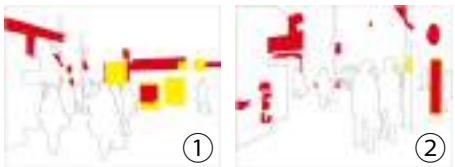

図 7. 視認性分析　■ 公共サイン ■ 高彩度色物件

図 6 は、大宮駅東口駅前の主要動線経路において写真を撮った位置を示しており、図 7 はそのうち「公共サイン」、看板などの「高彩度色物件」を着色したものである。図 7 より、どの地点においても高彩度色物件が「図」として視野に大きく入っており、公共サインはそれに埋もれてしまっていることが分かる。

5. 結論と今後の課題

大宮駅東口地区は禁止警告系サインの比率が高いが、その効果に関しては疑問視される。その在り方については、屋外広告物を含めたサインと景観の総合的な検討が必要である。そのためには次の段階として、屋外広告物に関する現状を把握することが望ましい。

参考文献・協力

街の公共サインを点検する　著者　本田弘之 / 岩田一成 / 倉林秀男

街のサイン計画－屋外公共サインの考え方と設計　著者　宮沢功

3-1、3-2 についてはアーバンデザインセンター大宮 (UDCO) から芝浦工業大学鈴木研究室への委託研究の一部であり、3-1 については br15020 鎌田海彩子と共同で調査をした。